

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団 2016年（平成28年）度事業計画（案）

〔2016年（平成28年）4月1日～2017年（平成29年）3月31日〕

公益財団に移行し7年目。東日本大震災で保護者を失った高校生、大学生らに返還の必要のない給付制度の奨学金を贈る「毎日希望奨学金制度」を今年度も継続。社会福祉の増進と相互扶助精神の涵養のため、一般読者らからの寄付金などをもとに以下の公益事業を展開する。

公益事業 1 国内外の福祉に関する事業 (事業種別3, 4, 6, 7, 11, 12, 15) 各事業費は諸経費を含まず

児童福祉に関する事業

主催事業

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎「母の日・父の日募金キャンペーン」(支払助成金より100万円)

毎年5～6月に紙面で展開する「母の日・父の日キャンペーン」で寄せられた寄託金の中から、C V V（児童養護施設入所の当事者やOBで作る当事者団体）、あしなが育英会などへ贈呈する。

(主催公演事業 事業区分17)

◎「施設児童就職予定者研修会・児童福祉施設から就職する生徒に祝い金贈呈」(支払負担金より100万円)

2月、大阪府内の児童福祉施設から中学、高校を卒業して就職する生徒を対象に、先輩らを招いて社会人としての心構えなどを聴く研修会を開き激励する。また、その会場で大阪府内の児童福祉施設から中学校、高校を卒業して就職する100人（全員）に激励の意味を込め祝い金を1人1万円ずつ贈呈する。社会福祉法人大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会と共催。本団は祝い金贈呈を担当。

(研修会は1975年～・祝い金は1962年～)

共催分担金事業

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

◎「交通遺児の近畿地方ボウリング大会」(支払負担金より60万円)

6月26日、近畿各地の交通遺児、病気遺児、震災遺児らとその家族約80人を毎日新聞紙面などを通じて公募、ボウリング大会と昼食会を催す。大阪交通遺児を励ます会との共催。(1992年～)

◎「ゆうゆう（フレンドシップ）キャンプ」(支払負担金より40万円)

大阪府下の家庭児童相談室、一般財団法人大阪府青少年活動財団などと共催して、被虐待児童の社会性を養うため、野外活動を展開する。1泊2日の夏季キャンプや日帰りハイキングなど年間3回の行事を実施する。

(1997年～)

◎「白崎野外活動キャンプ」（支払負担金より10万円）

8月、大阪市が管轄する児童福祉施設の小学6年生を和歌山県由良町・白崎海岸での1泊2日のキャンプに招待。13年度までのハチ北高原から実施場所が変更になった。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。（1968年～）

◎「新春こども大会」（支払負担金より10万円）

1月、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが冬休みに練習した成果を披露する発表会。市内の区民ホールで開催。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。（1969年～）

◎「施設児童の駅伝・ロードレース大会」（支払負担金より5万円）

2月、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちの駅伝ロードレース大会。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

◎「施設児童職場体験プログラム」（費用負担はなし）

大阪府内の児童養護施設の中高生を対象に職場体験を実施。大阪児童福祉事業協会などと共催し、来春、施設を出て就職する子どもたちに会社見学や実際の仕事を体験してもらうなどして自立に向けた自覚を促す。

児童福祉特定団体助成・後援事業

*「施設生活と発達障害の微妙な関係 パート3」講演会

（支払助成金より50万円）

発達に課題を抱える子どもへの具体的な関わり方について、施設職員やケースワーカーらを対象に、専門家が実践的なアドバイスを行う大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部主催の講演会に50万円を助成、後援する。公募助成100周年特別枠として2011年から助成。

*「社会的養護当事者による学習会・講演会・サロン」

（支払助成金より49万円）

児童養護施設出身者らが進学の問題（奨学金相談会）や社会へ出た後のアフターケアなどをフォローする事業。なごやかサポートみらい主催。費用の一部、49万円を助成、後援する。公募助成100周年特別枠として2011年から助成。

*「自立支援プログラム いずみサロン」（支払助成金より39万円）

名古屋市内の児童養護施設の中学2年生以上を対象にした自立支援のための調理体験や職業体験、カウンセリングなどを行う。就労支援事業サポートいずみが主催。費用の一部39万円を助成、後援する。公募助成100周年特別枠として2011年から助成。

*「母子生活支援施設、母と子の一泊旅行」（支払助成金より28万円）

大阪府下の民間の母子福祉支援施設で過ごす母子を対象に一泊旅行に招待、その費用の一部28万円を助成、後援する。

*「琵琶湖セツルの家事業」（支払助成金より8万円）

大阪市地域福祉協議会に加盟する保育園や施設などが、7月～8月の間、大阪を離れて琵琶湖岸でキャンプをする事業へ8万円を助成、後援する。

*「愛の手運動・里親ふれあいキャンプ」（支払助成金より18万円）

近畿地方で里親運動を展開する公益社団法人家庭養護促進協会が主催する里親ふれあいキャンプへ18万円を助成、後援する。

* 「北摂養護施設連盟 北摂子ども大会」 (支払助成金より10万円)

北摂養護施設連盟が主催する北摂地域の児童養護施設などに暮らす子どもたちのスポーツ大会へ10万円を助成、後援する。

* 児童施設に絵を贈る運動

子どもたちの情操教育のために「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」に寄せられた作品の中から絵画を児童養護施設などに贈る。2015年度は6児童養護施設に贈呈した。

医療福祉に関する事業

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎ 「小児がん征圧キャンペーン」 (支払助成金より400万円)

毎日新聞社と展開しているキャンペーン「生きるー小児がんのこどもたちとともに」と連動し、小児がん征圧募金を募る。募金は年度末に患者団体や支援団体に配分する。

また、今年度より2015年度に寄託があったAK基金(仮称)2,674万円を元に年間330万円(経費を含む)を8年間にわたり患者団体や支援団体に配分していく。(1996年からの継続事業)

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

◎ 「難病支援団体への助成事業」

公的助成の少ない難病患者団体などの特定団体に事業助成する。

高齢者福祉に関する事業

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎ 「配食サービス車贈呈事業」 (支払助成金より車両費用170万円)

独居老人や障害者に食事を届ける配食サービスをしている福祉団体やボランティアグループを毎日新聞紙面などを通じて一般公募し、特別仕様の配食サービス車を1台贈呈。(1999年からの継続事業)

心身障害者福祉に関する事業

主催・共催分担金事業

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

◎ 「専門図書点訳・音訳講習会」 (支払負担金より100万円)

社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センターなどと協力し、専門点訳が「琴の楽譜コース」全6回、「UEB(統一点字標記:英語圏8カ国で導入)英語点字コース」全6回、専門音訳は「古典コース」全6回、「音声解説スキルアップ講習」全6回、「テキストデイジー編集コース」全2回(1日6時間集中講座)、4月から2017年3月にかけて講習会を開く。受講者は毎日新聞紙面などで公募。(1987年～)

◎「視覚障害者 I C T ・ サポートボランティア講習会」

(支払負担金より30万円)

視覚障害者が使用するパソコンなど I C T (情報・コミュニケーション支援機器) 利用のサポートを行うボランティア養成講習会として始まり、昨年度からは視覚障害者当事者も対象にした I C T 機器の体験講習会として5月から2017年1月にかけて13回開催する。社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センターとの共催。受講者は毎日新聞紙面などで公募。

(1997年～)

◎「声の点毎」発行を助成 (支払負担金より10万円)

全国14カ所の国立ハンセン病療養所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに月2回「声の点字毎日」デイジー版を寄贈する事業。東京、西部社会事業団とともに寄贈。

(表彰、コンクール事業 事業区分14)

◎「全国盲学校弁論大会」 (支払負担金より20万円)

毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会とともに共催。毎年10月に開き、第85回目、16年度は大阪府立視覚支援学校で開催予定。(1928年～)

心身障害者特定団体助成・後援事業

*「全国わたぼうし音楽祭」を助成 (支払助成金より20万円)

障害者の日頃の思いを詩に託し、一般の人たちが、その詩に曲をつけて舞台上で発表する一般公募の音楽祭。奈良たんぽぽの会が主催。東京社会事業団10万円、西部社会事業団5万円、本団は20万円を助成。

(1976年～)

*「愛知心理療育キャンプ」 (支払助成金より3万円)

愛知心理療育親の会が主催する脳性マヒ児の療育キャンプ。本団はこの事業を後援し3万円を助成。

他の社会福祉事業団体の事業助成

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎「公募福祉助成金制度」 (支払助成金より200万円)

公益財団移行に伴い2010年度から新たに始めた事業。国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこからも援助のない団体などへ一般公募で事業助成する制度。1団体につき50万円以内。総額200万円。

(2010年～)

その他目的を達成するために必要な事業

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎「歳末たすけあい運動」

*「歳末義援金募集」 (支払助成金より70万円：歳末贈呈分)

11月中旬～12月末にかけての毎日新聞紙面などを通じて歳末義援金を募集。歳末慰問金として各団体に贈るほか、公益事業全般で活用す

る。

* 「チャリティー 名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」

日本全国の芸術家や著名人から寄贈を受けた作品を12月中の3日間、毎日新聞大阪本社地下1階のオーバルホールで展示、チャリティー販売をする事業。収益は公益事業全般で活用する。(1936年～)

* 「チャリティー 名士寄贈書画工芸作品 即売会PART2」

2017年4月に予定されている消費税増税前に、在庫作品の即売会「チャリティー名士寄贈書画工芸作品即売会PART2」を2017年2月11日(土)に毎日インテシオ4階会議室で開催する。

* 「児童福祉施設に絵を贈る運動」

中部地区、西日本地区の児童福祉施設に一流芸術家が描いた絵をプレゼント。「本物」の絵を情操教育に役立てる。主催事業の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」に寄せられた作品から選定。(2007年～)

(表彰、コンクール事業 事業区分14)

◎ 「毎日社会福祉顕彰」 (支払負担金より180万円)

社会福祉の分野で献身的な活動をしている個人、団体を顕彰する。毎日新聞紙面などで公募し5月末に応募を締め切り、厚生労働省や大学教授らからなる審査会を経て受賞者を決定。10月初めに授与式を行う。3件の受賞者に賞牌と賞金(1件100万円)を贈る。東京、西部社会事業団との共催事業。(1971年～)

(その他特定団体や弱者への救援事業 事業区分18)

◎ 「指定寄付金事業」

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「里親支援に」など寄付先が特定された団体や個人へ寄付する。

◎ 機関紙「そよかぜ」の発行 (印刷製本費より14万円を支出)

機関紙「そよかぜ」49号を発行する。

その他の名義後援事業

- 4月＝大阪府、大阪市身体障害者スポーツ大会後援
 - 愛知県聴覚障害者体育大会後援
 - バリアフリー大阪後援
 - 全大阪ろう社会人軟式野球春季大会後援
- 5月＝身体障害者作品展後援
 - 大阪養護学校児童生徒作品展後援
 - 全大阪ろう社会人軟式野球大会後援
 - 愛知県障害者スポーツ大会後援
 - 名古屋市障害者スポーツ大会後援
 - 全国盲人福祉大会名古屋大会後援
- 6月＝中部障がい者水泳選手権大会後援
 - 東海聴覚障害者体育大会後援
- 7月＝全愛知ろう社会人軟式野球秋季大会後援

- 愛知県聴覚障害者大会後援
- 8月＝土と水と緑の学校などの野外活動を後援
児童福祉施設（名古屋市）スポーツ大会後援
- 9月＝大阪府重症心身障害児・者を支える会セミナー後援
障害児教育講座後援
保健福祉を考える集い後援
名古屋市身体障害者福祉大会後援
名視協老人クラブ白寿会後援
- 10月＝大阪救護施設合同文化事業後援
大阪府委託医療社会事業従事者講習会後援
愛知県社会福祉大会後援
- 11月＝点字毎日文化賞を後援。
- 12月＝障害のある子どもに学ぶ図工展後援
愛知県身体障害者福祉大会後援
名古屋市障害者作品展示会後援
- 2月＝ふれ愛の街チャリティー・バザール後援
聴覚障害者の集い及び名古屋市手話祭後援
- 3月＝肢体不自由児者の作品展後援
耳の日記念聴覚障害者と愛知県民のつどい後援

公益事業 2 シンシア基金事業（事業種別 3）

（キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分 8）

◎シンシア基金キャンペーン事業（支払助成金より60万円）

身体障害者補助犬支援のための基金。1998年から毎日新聞阪神支局・社会部と連動しキャンペーンを行い「身体障害者補助犬法」成立の手助けを行った。

今年度も介助犬発祥の地、兵庫県宝塚市での身体障害者補助犬支援のシンポジウムや身体障害者補助犬ステッカー作成などの啓発事業、身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬など）支援事業を展開する。

（助成（応募型）事業 事業区分 13）

◎シンシア基金助成事業（支払助成金より70万円）

公益財団移行に伴い2010年度から新たに始めた事業。身体障害者補助犬支援に関わる団体などに対する公募助成。1団体50万円以内の事業助成。

公益事業 3 災害救助に関する事業（事業種別 3）

◎「災害救援基金事業」（支払助成金より235万円）

「東日本大地震救援に」「〇〇災害救援に」など特定の国内外災害への被災者救援事業に寄託する事業。

* 毎日希望奨学金制度（支払助成金より4,800万円）

2011年5月4日、東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児を支える「毎日希望奨学金」制度を毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設。2015年度は高校生、高等専門学校生、短大、大学生、専修学校生217人（最終は215人）に月額2万円、合計5,184万円を支出した。

選考委員会を経て2015年度からの継続者と新規の合計200人に月額2万円、年間約4,800万円を支給する予定。

公益事業4 国際協力に関する事業 (事業種別 15.16)

(キャンペーン、〇〇月間事業 事業区分8)

◎世界子ども救援キャンペーン

(委託費より250万円・支払い助成金より500万円)

毎日新聞社との共催事業で「世界子ども救援キャンペーン」(旧飢餓・貧困・難民救済キャンペーン)は今年38年を迎える。国際児童年(1979年)にスタートし、アジア、アフリカ地域に記者を派遣。戦争・紛争、そして災害の最大の被害者は子どもや女性であり、国境を越えた助け合いが必要であることを毎日新聞紙上で強く訴えてきた。これまでに15億9,423万円の救援金を国連機関やNGOに贈り、約32の国・地域を支援してきたが、引き続き国際協力に関係する国連機関や民間団体への弾力的な資金助成や交流を継続する。

また、今年度より2015年度に寄託があったMH基金(仮称)3,000万円を元に年間375万円(経費を含む)を今後8年間にわたり、海外で児童支援の活動をする民間団体などに配分していく。

*「世界子ども救援金」

寄託金はユニセフなどの国連機関や現地で活動するNGOを通して難民支援などの資金に充てる。寄託金は今年度取材地助成、継続助成、公募助成の3つのカテゴリーで支援団体は紙面で掲載された団体を中心に活動内容、実績などから選考、公募助成は一般公募する。

海外の大規模災害、戦災などに対応して救援金を募集するケースもある。

*「紙面キャンペーン」

2016年度のキャンペーン取材のため大阪本社の社会、写真両部の記者を海外に派遣する。帰国後、毎日新聞紙面で連載を開始する予定。

*「写真展および写真パネルの貸し出し」

世界子ども救援キャンペーン取材の写真をもとにした写真展を大阪、京都で開催。こうした写真をパネル加工し、団体、学校などに募金を条件に無料貸し出しをする。

(助成(応募型)事業 事業区分13)

◎「世界子ども救援金」公募助成制度(支払助成金より200万円)

公益財団移行に伴い2010年度から新たに始めた事業。海外での支援活動を行う団体を公募し、事業助成を展開する。1団体100万円以内の事業助成。

以上